

## 2015年3月期 決算説明会

2015年5月29日（金） 代表取締役社長 中川 賢司



1. 2015年3月期 決算概要
2. 医薬品業界の動向
3. 次期（2016年3月期）の計画
4. 事業展望と課題の進捗状況

# 1. 2015年3月期 決算概要

## 2015年3月期 連結業績(前期との比較)

Ina Research Inc.

(単位：百万円)

	前期	2015年3月期	対前期	
	2013年4月-2014年3月	2014年4月-2015年3月	金額	前年同期比
売上高	2,778	2,994	+216	+7.8%
売上総利益	636	611	△25	△3.8%
販売管理費	570	564	△6	△1.1%
営業利益	66	47	△19	△28.4%
経常利益	49	32	△17	△35.1%
当期純利益	70	8	△62	△88.3%

## 期初予想との対比

Ina Research Inc.

(単位：百万円)

	2014/5/13 発表 期初予想	2015年3月期	対予想	
	2014年4月-2015年3月	2014年4月-2015年3月	増減額	増減率
売上高	3,000	2,994	△5	△0.2%
営業利益	83	47	△35	△42.9%
経常利益	50	32	△18	△36.9%
当期純利益	28	8	△20	△70.8%

## セグメント別 連結業績(前期との比較)

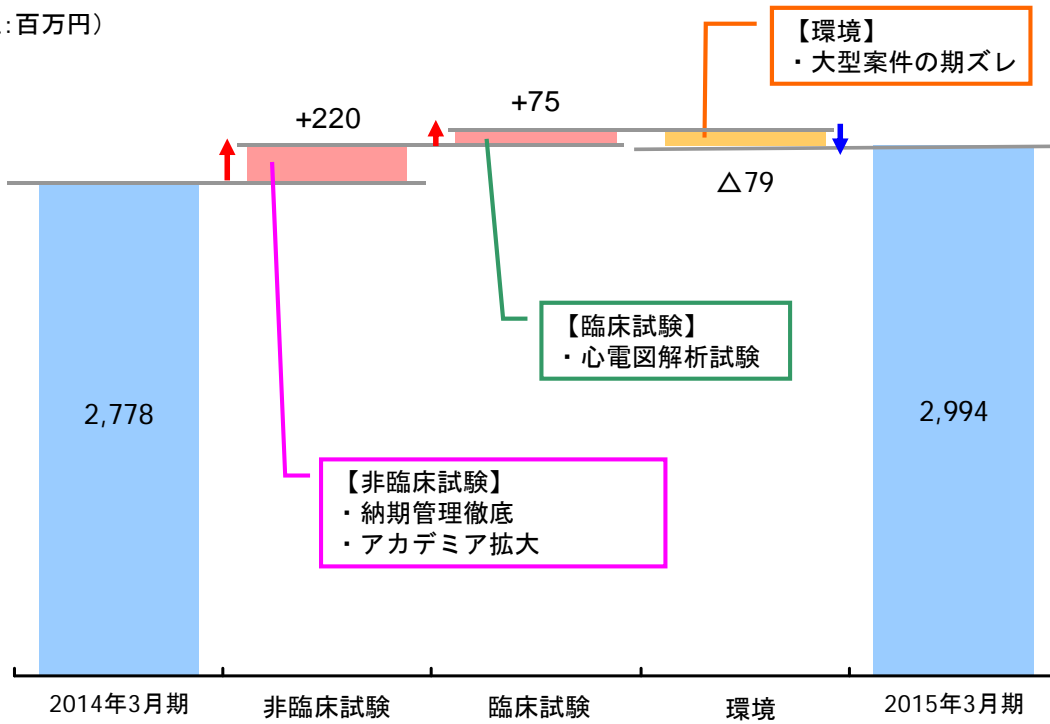
Ina Research Inc.

(単位：百万円)

		前期	2015年3月期	対前期	
		2013年4月-2014年3月	2014年4月-2015年3月	金額	前年同期比
非臨床試験	売上高	2,476	2,696	+220	+8.9%
	営業利益	76	39	△37	△48.8%
臨床試験	売上高	39	114	+75	+189.7%
	営業利益	△39	2	+41	—
環境	売上高	262	183	△79	△30.0%
	営業利益	28	5	△23	△81.6%

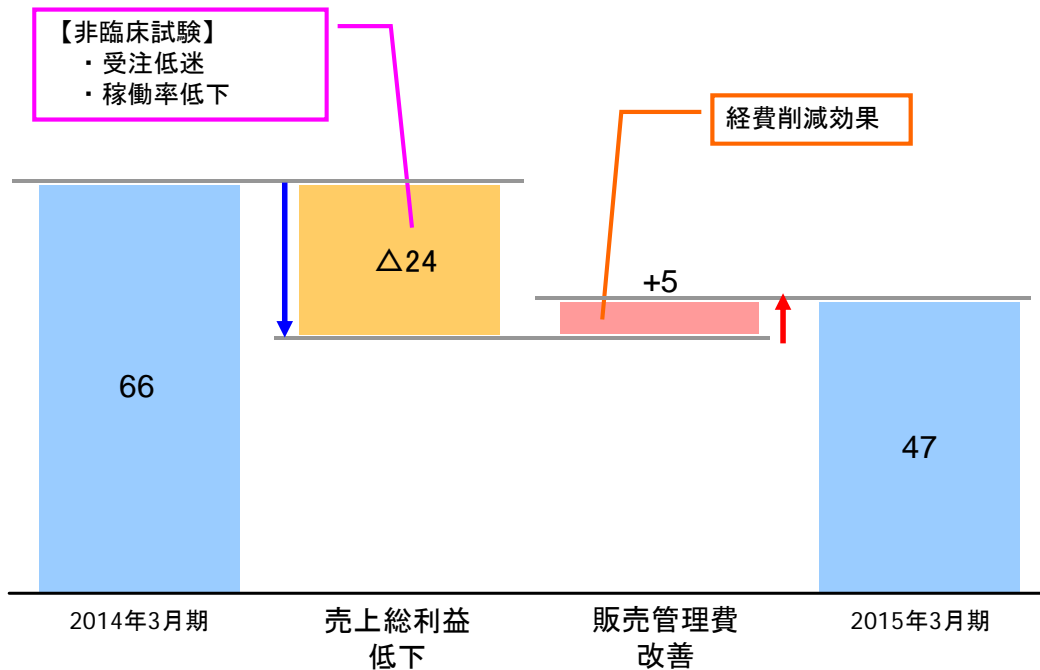
# 売上高増減内訳

(単位:百万円)



# 営業利益増減内訳

(単位:百万円)



# キャッシュ・フロー

## キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	2014年3月期	2015年3月期	対前期
営業活動によるキャッシュフロー	209	125	△84
投資活動によるキャッシュフロー	13	△42	△55
財務活動によるキャッシュフロー	△88	△6	+82

## キャッシュ・フロー関連指標

	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
自己資本比率 (%) (自己資本/総資産)	39.7	41.4	43.2
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年) (有利子負債/営業キャッシュ・フロー)	108.6	6.5	11.7
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍) (営業キャッシュ・フロー/利払い)	0.5	7.4	4.2

# 2015年3月期 配当について

## ■配当実績及び当期配当について

				1株当たり配当金	
2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	
700円	800円	3円	6円	<b>3円</b>	

2015年3月期配当性向：108.8%

※ 当社は2012年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行なっております。  
2011年3月期～2012年3月期については当該株式分割前の実際の配当額を記載しています。

## 2. 医薬品業界の動向

### 医薬品業界の動向

Ina Research Inc.

#### 医薬品業界の現状

- ◆ 後発薬市場の拡大が続き、新薬開発メーカーの利益圧迫要因となっている
- ◆ iPS関連事業に対する製薬会社の参入
- ◆ がん根治に向けた画期的な新薬が実用化されつつある
- ◆ 国内の製薬会社の収益性重視の姿勢は継続。
- ◆ 製薬会社による非臨床試験の内製化重視の姿勢は緩みつつある。

#### 今後の動向

- ◆ 医薬品産業への政府投資は引き続き堅調で、製薬企業とアカデミアとの共同研究も更に活性化する
- ◆ iPS細胞周辺でのビジネス化を模索する動きが更に拡大する
- ◆ 有効性や安全性の評価への遺伝子解析の活用が進展する
- ◆ マーモセットの利用が進む

### 3. 次期（2016年3月期）の計画

#### 2016年3月期 業績予想

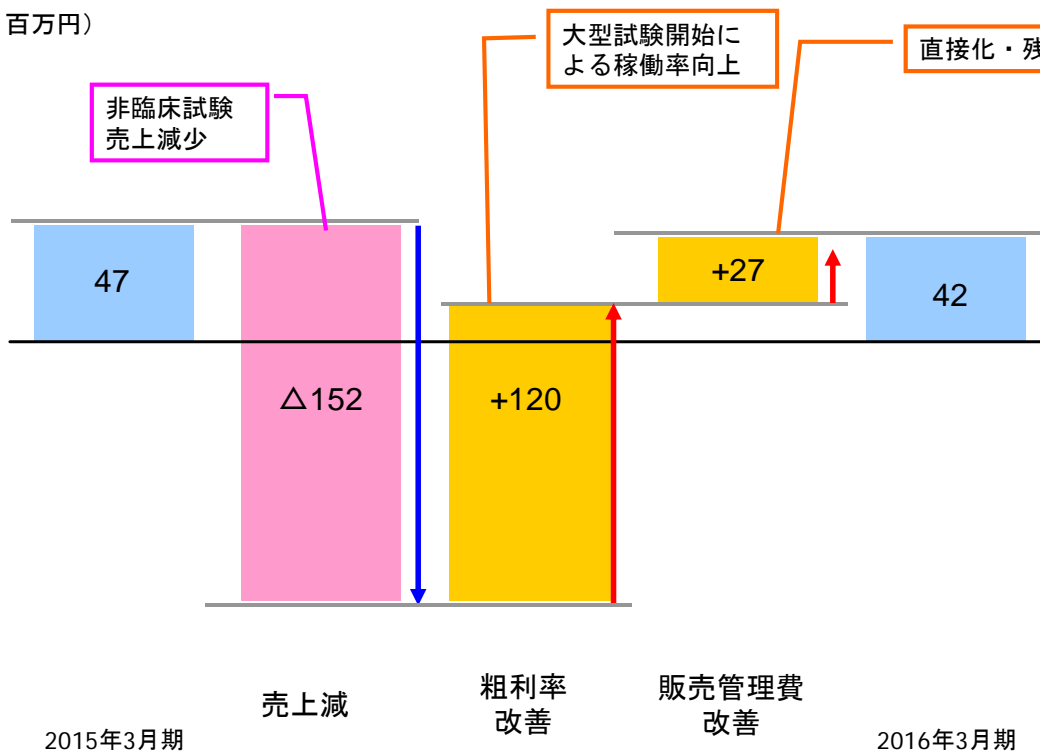
Ina Research Inc.

(単位：百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	対2015年3月期	
	実績	予想	金額	対前期 増減率
売上高	2,994	2,230	△764	△25.5%
営業利益	47	42	△5	△11.0%
経常利益	32	13	△19	△58.6%
当期純利益	8	7	△1	△7.0%

# 営業利益増減内訳

(単位:百万円)



## 2016年3月期 配当予想について

### 1株当たり配当金

2015年3月期	2016年3月期 予想
3円	3円

※参考

配当性向 2015年3月期:108.8%⇒2016年3月期:116.9%

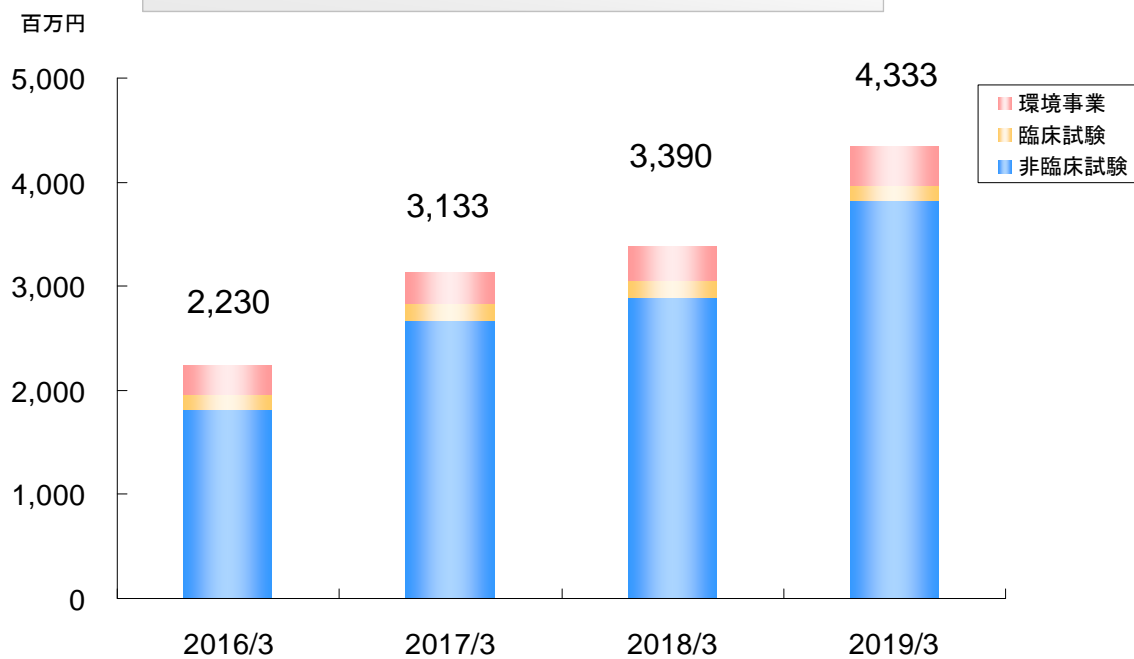


## 4. 事業展望と課題の進捗状況

### 中長期の事業展望

Ina Research Inc.

売上目標：43億円（2019年3月期）



## 非臨床試験事業の展望（1）

### iPS細胞関連事業の拡大

- ◆ アカデミアとの共同研究等を通じて、移植免疫寛容型動物の用途開発を加速するとともに安全性試験を充実させ、再生医療やiPS創薬への貢献度を高める。

### バイオ医薬品試験の拡大

- ◆ 実験動物中央研究所との連携強化により、核酸医薬品を含むバイオ医薬品向けの試験の動物種・試験種の充実を図る

### 病理機能・IT対応の充実による長期大型試験の獲得

- ◆ 著名な病理専門家をGLP職員に迎え、FDA申請用のITシステム対応等により長期大型試験を獲得、さらに拡大をはかる。

### アカデミアからの受注増加

- ◆ アカデミアに強いファルマシュプール社との連携強化を図り、アカデミアへの営業活動を強化する。

## 非臨床試験事業の展望（2）

### 遺伝子検査の受託開始と研究開始

- ◆ クラボウの遺伝子解析事業の拡大。創薬に遺伝子解析、遺伝子バイオマーカーを応用する研究を推進する。

### 試験の動物数を減らす技術を開発

- ◆ 動物倫理面、コスト削減の面から、毒性試験において使用する小動物の数を大幅に減らす技術を住化分析センターと共同開発した。今後差別化図り、改めて受託増加に繋げていく。

### スピードサービス

- ◆ 試験レポートの提出を大幅に期間短縮するサービスを立上げた。また、主要工程の効率化・迅速化のための自動化を実施した。今後も顧客ニーズに応じたスピード化を展開していく

1. MHC（移植寛容型）カニクイザルの安定供給に関する研究  
（当社、東海大学、滋賀医科大学、慶応大学との共同による  
JST採択事業）⇒4年計画の2年度。利用機関拡大中
2. iPS細胞を用いた心不全治療の共同研究⇒研究成果発表予定
3. 安全性試験へのiPS細胞の応用（業界共同推進）
4. マーモセットを用いた試験種の拡大⇒拡大中
5. 実験動物（小動物）の使用匹数削減に関する研究⇒実用化済
6. 創薬研究への遺伝子応用⇒継続中

## 臨床試験事業の展望

### QT関連試験の獲得

- ◆ 安定的に150百万円前後の受注を確保できるようになった
- ◆ サロQT試験に関わるガイドラインを注視しつつ、探索QT試験を拡販

#### 臨床試験事業の受注状況

2014年3月期 受注残：146百万円

2015年3月期 受注残：143百万円

※1 サロQT試験

臨床試験の初期段階で医薬品の循環器への副作用をヒト（健常者）により予測評価する試験

※2 探索QT試験

臨床Phase I 試験に組み込んで実施するQT評価試験

## エンジニアリングの拡大

- ◆ 各所研究施設の老朽化に伴い内装工事が増えている事からエンジニアリング業務を強化する。2015年3月期に設計有資格者を増員したことにより元請として大型案件を受注できるようになり、受注・利益ともに改善を見込んでいる。

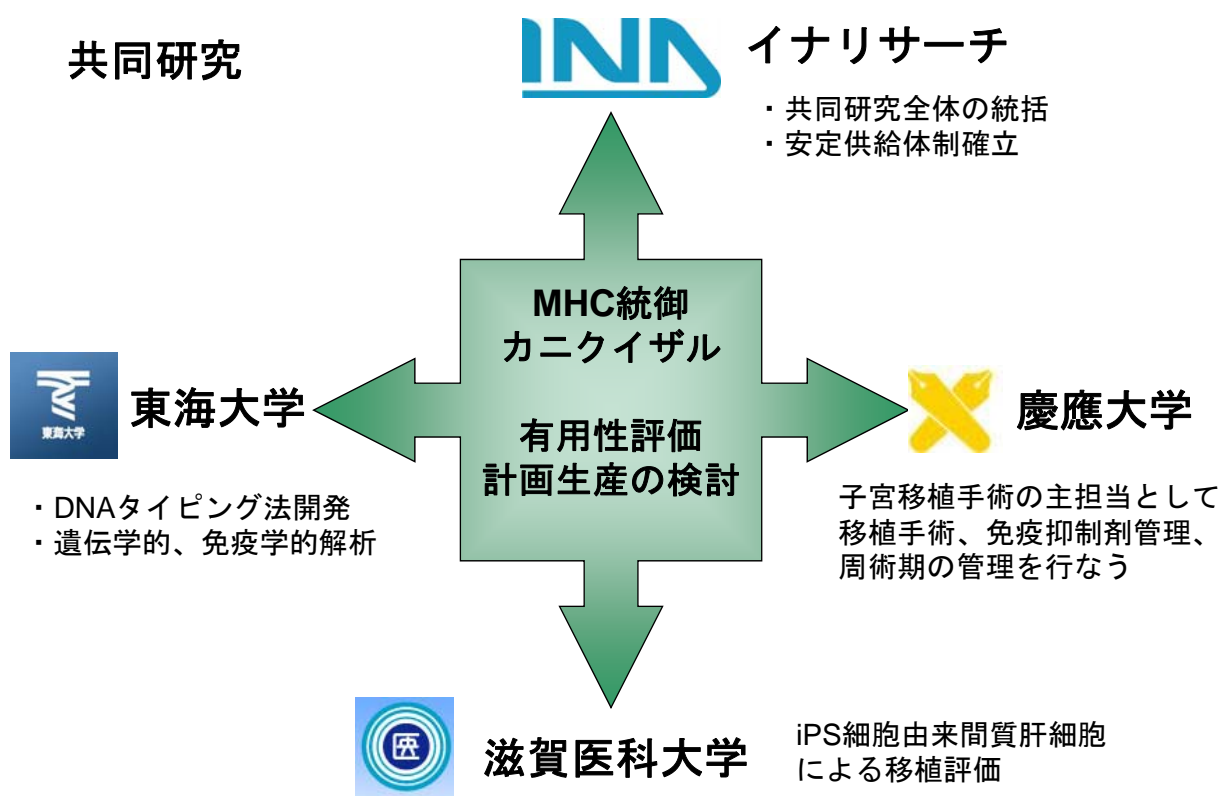
## インターネットの営業活用

- ◆ 脱臭、除菌専用のホームページを立上げ、ネット営業戦略を実行する事で営業拡大を図る。

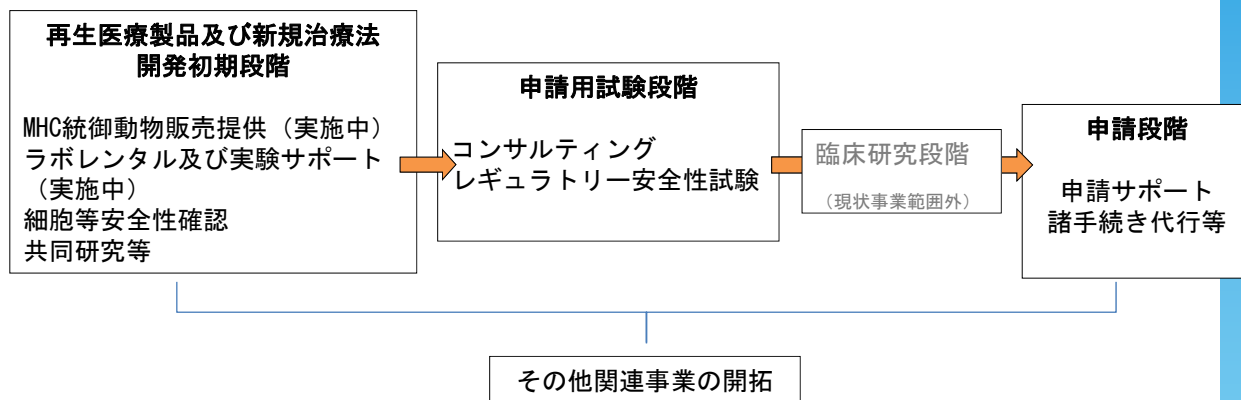
## 実験機器・機材の輸出を模索

- ◆ バイオテクノロジー研究の比較的盛んなアジア諸国に対する実験機器・機材の輸出販売を行っていく

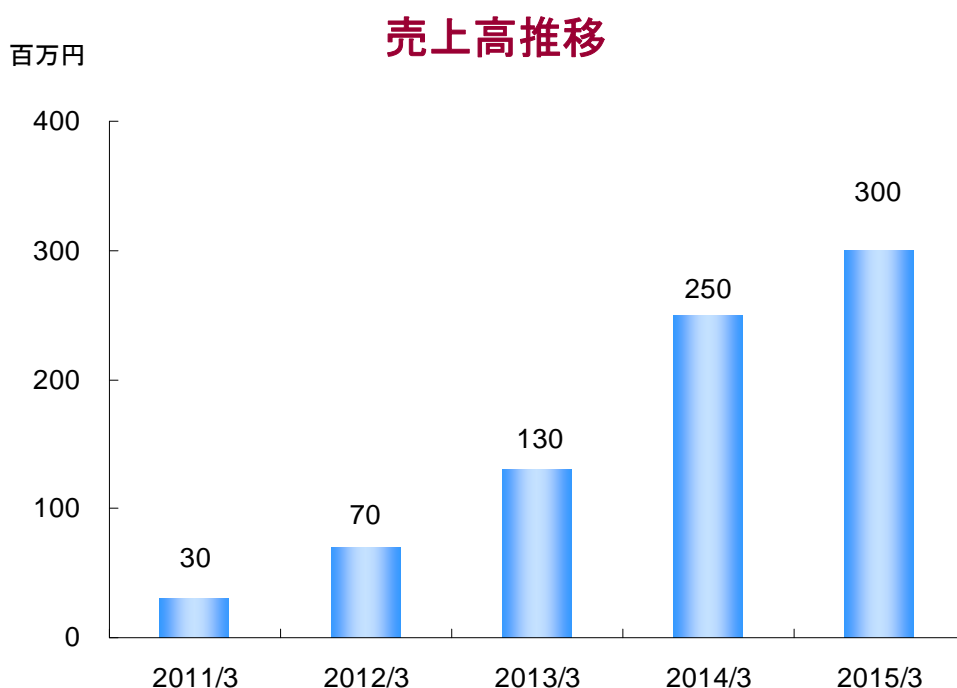
# MHC(移植免疫寛容型)サル分野への取り組み



# iPS細胞/MHCサル ビジネスモデル



## アカデミア拡販への取り組み



ご清聴ありがとうございました

 Ina Research Inc.

## IR連絡先

本資料に関するお問い合わせ

株式会社イナリサーチ  
総務部 IR担当

TEL : 0265-73-6647

医薬品開発のベストパートナー



**Ina Research Inc.**

<http://www.ina-research.co.jp/>

本資料は、株式会社イナリサーチの事業及び業界動向に加えて、株式会社イナリサーチによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。既に知られたもしくはまだ知られていないリスク、不確かさ、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社イナリサーチは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。本資料における将来の展望に関する表明は、2015年5月29日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社イナリサーチにより2015年5月29日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。